

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日	令和4年1月30日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を忘れず、施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思って頂ける様に支援しております。施設長の合言葉である「あなたのベクトルはどこを向いていますか」をそれぞれの職員が心に刻み、常に利用者中心にケアを行っています。利用者に今を楽しんで頂くために、様々なイベントを行ったり、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いております。地域連携に関しては、コロナ禍で交流が出来ていない状態です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『やすらぎの郷福祉村』の中に平成28年に開設したホームは、笑顔で自分らしい生活の支援を理念に掲げ、職員自身も笑顔で日々の業務に取り組んでいる。コロナ感染症により外出の制限や活動もある中、状況を見ながら地域の名所(桜やつつじ)へのドライブ、敷地内の散歩時にはお地蔵さんに手を合わせ、菜園の生育の様子を見たり、天然温泉による入浴など出来る事を創意工夫しながら支援している。日々の活動や健康状態など毎月の様の写真付きでの報告は、面会が制限されている家族にとっては安心や信頼として生かされている。入居者と家族の直接面会、一緒にテーブルを囲んで会話を楽しみながらの食事、地域にある支援学校や高校との交流、敷地内にある同法人施設との合同イベントなど、収束後の楽しみは計り知れず、当たり前だった日常にいち早く戻る日を心待ちに、ホームに出来る笑顔の生活を継続して支援されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念塾を開催し、職員の思いを形にした理念を作製する。その思いを忘れない様毎月の施設勉強会の最後に理念についての話をし、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。	理念塾(講師を招いて理念とはから勉強を行った)を開催、職員との意見交換により、簡単、簡潔な新たな理念を作成し、朝礼時に唱和をすることで意識付けとしている。また、毎月理念を想起させて話し合い、ベクトルを同じくしてケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で今年後は、地域との交流はほとんど出来ていない。	社会資源の充実した場所という立地条件と、福祉村という中にあり、これまで行ってきた高校や支援学校等との相互交流は出来ない状況にある。町の広報誌により行事等の情報はリサーチされており、コロナ感染症の今後の状況次第では、また交流が再開出来るよう備えて頂きたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年後は、コロナの影響で運営推進会議は書面での報告のみとなっているので地域貢献できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年後は、コロナの影響で運営推進会議は書面での報告のみとなっている。	今年度は書面での報告として、行政や地域包括支援センター、支援学校・老人会長・高校・区長・福祉村の事業所、病院やご家族等に郵送している。入居状況や待機状況、行事報告、ヒヤリハットや事故等を報告している。	光喜園の運営推進会議はメンバー構成が充実しており、報告書に一工夫されることを期待したい。例として事故報告では今後の対策等を記載するなど検討頂き、委員からの意見や提案をホーム運営に反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは、今後のケアの相談を行ったりと連絡している。密な連絡とまではいかないが、メールや電話などでのやり取りも行っている。	コロナ感染予防対策等の情報を得たり、ケアマネジャーは必要な書類をもらいに役場に向いた際には相談をしたり、介護保険更新について相談し、適切なアドバイスを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、毎年勉強会を行い、グループホームとしては、夜間以外の施錠も行わず、基本は、行きたい時に行きたいところに行ってもらうように努めている。職員配置で難しい場合は、ご説明し時間をずらしていくなどの工夫も行っている。	身体拘束廃止委員会による勉強会及び事例を検討し、職員の言葉使い等を話し合っている。入居者の中には、隣が自宅であると思ひこみ、本部の建物まで出かける方も有り、法人全体で見守りしている。	入居者が自由に行かれる行動を見守る姿勢は大いに評価できる。今後も入居者の所在確認を徹底いただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年1回の勉強会を開催している。活用に関しての話し合いは該当者がいなく行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろんですが、介護報酬の改定などの際はご説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するが、今の所投稿はなし。コロナの影響で家族会も出来ず面会時に意見や要望があれば対応している。	家族等の面会はコロナ感染症の状況により、可否を決めている。例年であれば、家族会やお花見・クリスマス等イベントに参加されていたが、行事の開催も中止せざるを得ず、家族との交流も出来ない状況にある。このような状況に、1ヶ月の様子と写真を沿えて家族に郵送している。また、面会時に意見や要望等の聞き取りしている。	家族との交流を図りたいとの意向もあり、コロナ感染症の状況を見ながら家族との交流する機会を検討いただき、家族の忌憚のない意見等の収集の場とされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで、その方の得意分野ややりたい介護を聞き出し、サポート行いながら提案の実現に繋がる様活動行う。	ユニット会議の中で、職員の提案や困り事等の問題提起にまずは試してみて合議で決定することとし、事故による対策案の評価をケアに反映させている。また、得意分野等の役割分担が出来あがり、管理者による面談等、意見や提案を出す機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。 研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で今年度交流が出来ていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話し、性格や生活歴を聞いたうえで、本人の要望や困りごとを聞き、不安な要素を消す努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話している。身体拘束をしないので、当然いろいろなリスクがあることなども、すべて話して信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者を認知症と思わず、まずは「人」ということを考え行動するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人だけでなく、家族のアセスメントを取りながら、家族関係の見極めを行っている。一方的に面会に来ない家族に対し、面会に来るように言うのではなく、関係性を見極めたうえで、来やすい環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で外出は出来ていないが、ドライブで馴染みのある場所へ出掛けている。	毎月家族との外食や地元美容室利用等これまで出来ていた場所・人との関わりはコロナにより希薄になりつつあるが、自宅近くまでのドライブ、地元を通り車中からの桜やツツジ見学等今できる事で楽しんでもらっている。家族との面会も短時間の対面や窓越し面会等であり、携帯を持参し姉妹との会話を楽しむ方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。状況次第で場の空気を作るような接し方に心がけることで、共同生活の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた利用者の所に面会に行ったり、昔ながらの馴染みの関係がある利用者様をお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の自主性を大切にしている。勤務の時間帯も利用者に合わせて、その都度、検討を行っている。又、生活歴を重視し利用者様が出来なくなっている事に傷つかないよう配慮しながら、希望を聞き出して、慎重に検討を行っている。	契約時に希望等を聞き取りし、日々の生活の中でしたいことを尋ねる等入居者の意思を尊重している。意思表示が困難な状況には選択肢を投げかけたり、2択等自己決定の場を作り、“待つ”ケアに努めている。言葉では難しい場合には、表情や行動等により推察してケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の過去のサービスの使用状況などを聞き出し、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど、利用者や傷つけないように配慮しながら、出来ることはして頂くなどの役割を見出しながらケアを行っている。 利用者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の認知症の症状を探りながら、ケアに当たっていき、本人・ご家族との関係性も考慮しながら、介護計画の作成に当たっている。	入居者のニーズに基づき、長期目標を立て、具体的且つ詳細なサービス内容を作成している。3ヶ月毎のモニタリング、担当者会議として家族やケアマネジャーと話し合うとともに追加項目を説明し新たにプランを作成している。終末期の状況には看取り用のプランに変更する等現状に即した介護計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者が言ったそのままの言葉)で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。又、ご提案頂いた事項については、運営推進会議で、報告と現状をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の学校関係と協働イベントやレクリエーション活動を行っていたが、コロナの影響で今年後は、出来ていない。コロナ禍でも出来る事を今後の課題としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、ADLの低下もあり、ほとんどのご家族が訪問診療を利用されている。一部のご家族は、以前からのかかりつけ医をご利用されている。	殆んどが協力医による訪問診療を受けており、希望の医療機関への受診は、コロナ禍により現在は、家族に代わって職員が対応している。歯科については2か所の医院より訪問治療が行われている。自歯の方には特に、歯科医による口腔ケアが徹底されている。また、ケアの方法や義歯についてもアドバイスが行われ、職員で共有を図りながら支援にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを看護師へ報告し必要であれば主治医へ報告し往診の際に診て頂いたり受診して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては、病院の地域連携室と調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やそうなる恐れがある場合は、ご家族に連絡し、十分なリスク説明を行った後、今後のご家族希望をお伺いしている。また、かかりつけ医にも時間をとって頂き話を行っている。	契約時に医療ニーズが高くなければホームでの看取りを支援できると説明し、状況に応じてあらためて意向を確認している。家族の中には法人特養への申し込みをされている方もおられる。この1年で入居当初から家族の希望と、入居者自身が口頭でホームでの生活を望まれた方に訪問診療・看護との連携により看取り支援が行われている。最期まで食べたいとの希望に可能な限り応え、本人の意思や意向に沿い、入居者の最終章に真摯に取り組んでいる。	入居者及び家族の思いに寄り添った看取りが支援されている。職員の取組や家族の気持ち等1ページとして残されることも良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会で急変時の対応及び事故発生時の連絡システムなどの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は行っているが、地震や水害想定での訓練は行っていない。現在の施設の場所は、地震や水害時の避難退避所として適切であるため、今後その想定で対策計画する予定。又、現在のところ地域消防団が参加しての避難訓練は未実施	防災委員会を中心に災害対策に取り組んでおり、今年度は昼・夜を想定した総合訓練を2回実施している。コロナ感染症により今回、入居者は室内にいたため、実際の動きや対応については把握できていないが、避難時の確認(トイレ・居室など)を徹底する事を日頃から共有している。災害備蓄については特養施設と一緒にリストをもとに確保している。	防犯対策について、今後の課題として進めていかれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会を行い、本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。認知症の前に一人の人だと言うことを徹底している。	入居者が安心して過ごせる日常の支援に努めており、認知症ケアに関する研修会で個々の尊重についてあらためて意識を強化させている。同性介助について家族から要望をだされることもあり、職員体制をみながら対応している。身だしなみやおしゃれの支援もお化粧や衣類の選択など、自身で出来る方にはサポートをしながら継続できるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、施設外の散歩に行きたい利用者に対し、職員が少ない時は、待つ頂く事はあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたり、おしゃれを気にされている方もいましたが、整容などの声掛けは行い、出来る方はご自分でして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もあり。家庭的な雰囲気での食事に努めている。	現在、昼・夕食の主と副菜は業者で調理されたものを使用し、朝食とご飯、汁物をホームで準備している。ホームの調理では職員が近隣商店などへ食材購入に出かけている。地域の飲食店からテイクアウトを活用することもあり、コロナ禍において好評のようである。入居者は配膳やおしぼり巻き、台拭きなど出来る事を一緒に行ってもらっている。食事は感染症への対応から職員は持参した弁当などを時間をずらし摂っており、検食者1名が同じものを食べ記録に残している。	職員も以前のように入居者と一緒に食卓を囲める日を楽しみにしている。職員の感想や入居者の代弁として記入された検食簿の内容については、満足の声や改善内容など業者へ伝えていくことを検討頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックはしていませんが、水分が少ないと思われる利用者様に関しては、チェックを行ったりします。又、野菜などや栄養のバランスには気を使っております。利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供をすることもあります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は、本人さんに声掛けし、歯磨きをしていただいています。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもあります。訪問歯科により、半年に1回の口腔内検査も実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛け行い、トイレ誘導行っている。トイレでの排泄を機能訓練の一環と考え、出来る部分を引き出せるように介護行っている。	日中はトイレでの排泄支援に努めており、リハビリパンツや布パンツで過ごされている。排泄後はトイレ内を確認し、他の使用者が気持ちよく排泄できるようにしている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは日中、部屋の外や歩行の妨げにならない場所に移動している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉ヨーグルト・ミルミル・ジョア・オリブオイル・オリゴ糖・牛乳等と色々な食材を使用し、その中から利用者に合った食材を見つけ出す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。 入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日入浴出来ていないが一日おきの入浴を実施している。	個浴と温泉浴室で週3回を基本にした入浴を支援している。温泉浴室は広く友達同士で入られる方や隣接特養の機械浴の使用など個々の希望や身体状況に配慮している。午前・午後に支援しているが、職員の配置などから好きな時間に入浴は難しく、ゆっくりとした入浴に取り組んでいる。季節湯(菖蒲・柚子)も継続して支援し、全員が楽しめるよう2～3日取り組んでいる。	ホームは温泉入浴が設けてあり、コロナ禍前には「一緒にお風呂どうぞ。夜でもいいで。」を家族に提案されたこともある。家族の意向なども確認しながら入居者と家族との入浴が実現されることを願っています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者様が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いほしないようにしています。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師さんが毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化などに気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの役割を見出せるように努力を行っている。昔されていたことでも、現在どこまでできるかを調査しながら、本人が傷つく事ないように役割を見つけ出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人さんが外に出たいというときは、基本職員はついていだけで、行先は利用者にお任せしている。コロナの影響で今年後は外出出来ていないが、ドライブやテイクアウトなどで外出した気分を味わって頂けるよう努力している。	これまでのような外出は難しいが、日光浴を兼ねて天候の良い日は状況を見ながら敷地内を散歩し、設置されたお地藏さん手を合わせると安心されるようである。花見(桜・つつじ)ドライブや、ユニット毎に庭先での花火大会で夏の一夜を楽しみ、新年にはホーム内に職員手作りの神社(喜寿神社)を作り参拝やおみくじを引いてもらう等遠出をしなくても四季折々の楽しみを職員が工夫を凝らしている。	これまでは家族との毎月のドライブや外食、理美容での外出等をされていた方もおられる等、入居者・家族、職員も外出の時間を楽しみにされている。、コロナの収束とともに、引き続きホーム内で出来る支援の継続に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3000円までご自分で保管できる体制を作っている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に意見箱を設置するが、今の所投稿はなし。遠方のご家族の方と電話で話されたりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけるようにお話している。又、利用者の状況を見ながら、ご家族と相談の上居室の工夫など行っている。	ホーム内は感染症への対応として換気や掃除、消毒の徹底と食堂テーブルには仕切りボードが設置されている。座席も入居者の身体状況や相性などを考慮して配置している。ホールの壁面には入居者の作品(書など)をはじめ、毎月工夫を凝らした壁面作品が季節感を醸し、入居者も一緒に作成することで自信回復や出来る喜びを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなききに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、利用者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきていただけるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂け得るように配慮している。	お気に入りや使い慣れた私物で穏やかに過ごしてもらえよう、持ち込み品について説明を行っている。テレビの持ち込みもあるが、大半を共有スペースで過ごされるため、居室での視聴はあまりないようである。持ち込まれた仏壇や位牌に手を合わせたり、月命日には職員も掃除を一緒に行うなど心の拠り所となる時間を支援している。	面会が制限されており、居室内の様子も家族にとって気になる点と思われる。今後も安心に繋がるような発信が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの危険認知面などを理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように支援している。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、利用者の行動を見極め、テーブルの配置やソファの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で新しい理念を作り、共有出来る様に朝礼や会議前に唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で交流出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議を通じて、認知症の勉強会等をしてできていたが、コロナの影響で運営推進会議も今年度は書面の報告となっている為できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で今年度の運営推進会議は書面のみの報告となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市町村の担当者とは、今後のケアの相談を行ったりと連絡している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設研修で理解できており、身体拘束がおきないよう職員同士ケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と並行し虐待に対する勉強会を行っている。虐待に至らないよう、職員間で注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会も年に1回行っているが、成年後見制度が必要な入居者の方が居らず今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や介護報酬の改定などの際は、ご家族へ連絡し説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議の際ご意見やご要望を伺い、スタッフ間で共有し、ケアに反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議を通じて、職員の意見や提案を聞いている。提案が出た場合は、出来る限り実現できるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修を行い、ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に法人以外の同業施設の参加されている為職員が交代で参加していたが、コロナの影響で今年度の運営推進会議は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居当初は、どのような方なのか、ご希望は何かを伺いながら、しっかり傾聴し関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報だけでは、わからない部分もある為それを含めながら、ご希望等お話を伺い、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設である為サービスは限られているが、スタッフ間で話し合いながら、色々なケアを行い、本人に合っているケアを模索し努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの良さを活かし、出来るところは日々見守りながら見極め、おまかせしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご本人の状態を毎月のおたよりや電話、面会時に逐一報告し、疎遠にならないよう気をつけているが、コロナの影響で面会に制限がありご家族との関わりが減ってきている為今後の課題である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で買い物支援を中止しているが、ドライブ等で馴染みのある場所へ出掛けたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、時には間に入ったりと共同生活の構築に努めているが、利用者間にも合う合わないがあるので配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養入居の為退居された方は面会にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望を聞き取るよう努めている。困難な場合はご家族からも聞きとり、本人の思いに添えるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際に聞き取り、足りない部分は面会時や本人から聞き、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど配慮しながら、出来ることはして頂くなどの役割を見出しながらケア行い、利用者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を実施して出来ている。会議に参加出来なかった多職種にも相談し反映出来ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者様が言ったそのまの言葉)で記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で今年後は、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、ADLの低下もあり、ほとんどのご家族が訪問診療を利用されている。一部のご家族は、以前からのかかりつけ医をご利用されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での気づきを看護師に相談し、受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の状態を地域連携室に問い合わせたり、退院に向けての調整を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療をお願いしている為、早い段階で家族に現状の説明と家族の意向等聞いて情報を共有できている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会で、急変時の対応を行っているが、いざという時対応できるか不安はあるので実践力を身につける努力をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練で身につけてると思うが地域との協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強をする中で、本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ていない時もあるが自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行うよう努力している。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等なるべく本人様に選んで頂き本人の好みの把握に努め支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の特性をつかみ好きな分野の声掛けを行い、一緒に食事の準備や片付けを行っている。利用者様の気が乗らない時などは、職員が行うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は個々に合わせて対応している。不足している所は努力し、次につながる様情報共有に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔指導を取り入れ個別ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方については排尿パターンを把握し出来る所はなるべく自分でして頂く様働きかけている。排泄の失敗が減った方には使用しているオムツの検討をし減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きなこヨーグルトや牛乳、ミルミル等の提供を行い、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、曜日は希望がない限り決めていないが、重度化してきて機械浴の方もいるので1日おきの入浴となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて安心して気持ち良く眠れるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ皆が閲覧出来るようユニット内に個人の薬情を置いている。症状の変化の確認はスタッフ同士記録や口頭にて伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの役割を見出せるように努力を行っている。昔されていたことでも、現在どこまでできるかを調査しながら、役割を見つけ出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの影響で出来ていないが、ドライブやテイクアウトなどで外出した気分を図るなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者は所持しており自分で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望時、家族の理解を得て支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂ける様家庭に近い環境作りを努力している。また、食堂には季節感を採り入れるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットに独りになるスペースがないので今後居場所づくりの工夫をしていきたい		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけようとお話しているが現状持ち込みが少ない状態。利用者の状況を見ながら、ご家族と相談の上居室の工夫なども行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内散歩を自由に行ったり、ホールの外は窓から自由に行き来出来るよう開放している。洗濯物干しや取り込み等出来る方はお任せしている。		